

岩手県総合計画審議会
第4回岩手の若者部会

(開催日時) 平成30年5月29日(水) 9:00~10:15

(開催場所) サンセール盛岡 2階「福来(南)」

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 部会長及び副部会長の互選について
 - (2) 次期総合計画中間答申(案)について
 - (3) その他
- 3 閉 会

出席委員

神谷未生委員、黒沢惟人委員、下向理奈委員、千田ゆきえ委員、中野美知子委員

欠席委員

佐藤柊平委員

1 開 会

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長 それでは、ただいまから岩手県総合計画審議会第4回岩手の若者部会を開催いたします。

私、事務局を務めております政策地域部副部長の小野でございます。よろしくお願いいたします。暫時進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。着席させていただきます。

議事に入ります前に、きょうの審議の概要など、会議の進め方につきまして、事務局から御説明申し上げます。

○岩渕政策地域部政策推進室政策監 4月に異動して参りました岩渕と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私から、資料1に基づきまして、本日の審議概要について御説明申し上げます。すみません。着席して説明させていただきます。

部会資料の資料1を御覧いただきたいと思っております。議事の(1)として、会長、副会長の互選でございますが、第20期総合計画審議会委員改選後の初めての部会でございます。そのため、はじめに部会長及び副部会長を選出していただきたいと考えております。

次に、議事の(2)、次期総合計画中間答申(案)についてでございます。事務局から概要を説明いたしますので、その内容を踏まえ、若者の視点から意見交換をしていただきたいと思います。

それから、議事の(3)、その他でございますが、その他委員の皆様から御意見などございましたら御発言をお願いしたいと考えております。

議事の(2)でございますが、若者の視点からということで、幅広く御意見をいただき

たいと考えております。よろしくお願いいたします。

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** 本日の部会の内容につきましては、今御説明したような内容を予定しております。

2 議 事

- (1) 部会長及び副部会長の互選について
- (2) 次期総合計画中間答申（案）について
- (3) その他

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** それでは、早速ですけれども、議事に入ります。

まず、議事（1）の部会長及び副部会長の互選についてですけれども、先ほど説明ありましたように第20期の審議会委員の改選がございましたので、これに伴いまして行うものです。とはいえ、御覧になってわかりますように、部会の委員の皆様、引き続きといったことでございます。本来であれば、部会長選出までの間、会議の議長をどなたかにお願いし、議事を進めるといったところがございますけれども、便宜的に私、事務局のほうで議長を務めさせていただくこととしたいと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** ありがとうございます。

それでは、事務局といたしましては、引き続き部会長を神谷未生委員に、それから副部会長を黒沢惟人委員にお願いしたいというふうに考えておりますけれども、そういったことで御提案させていただきますが、いかがでございましょうか。

「異議なし」の声

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** ありがとうございます。

それでは、部会長を神谷委員に、副部会長を黒沢委員にお願いいたします。

それでは、神谷部会長のほうから御挨拶をお願いいたします。

○**神谷未生部会長** 皆さん、おはようございます。去年1年で、私も黒沢君も大分会の応援になったかなと思うのですが、ことしも1年間部会長をさせていただくということで、どうかよろしくお願いいたします。

去年割とみんな慣れてきて、すごくいい感じで、かた苦しなく意見が出せる雰囲気になってきたので、ことし1年も余りかた苦しなく、どちらかという一番楽しい雰囲気で行っていただければいいと思うので、御協力のほうよろしくお願いいたします。

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** ありがとうございます。

では、これ以降の進行は神谷部会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○神谷未生部会長 はい、ありがとうございます。

それでは、議事（２）の次期総合計画中間答申（案）について入ります。

はじめに、では事務局のほうから説明をお願いします。

○岩淵政策地域部政策推進室政策監 では、私から説明させていただきます。恐縮ですが、座って説明させていただきます。

最初に、全体像を御説明したいと思いますので、恐縮ですが、午後の総合計画審議会資料としてお配りしております資料３、この計画全体の概要版を御覧ください。また、資料４が中間答申（案）の本体となっております。この資料３をベースとして御説明申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。

今回、中間答申（案）についての御審議ということでございますけれども、まずはじめに左の一番上、はじめにでございます。この部分につきましては、昨年 11 月に諮問した際に県がお示した計画の枠組み、10 年の期間とすること、また構成等でございます。総合計画審議会における審議の前提条件となる部分でありますことから、中間答申（案）、この本体につきましては、第 1 章の理念からの記載としているところでございます。

中段、第 1 章の理念につきましては、1 番の時代背景、2 の岩手県における背景、そして 3 番に計画の理念として、ポツの 3 つに記載しているような内容になっております。また、4 として幸福と持続可能性ということで、今回の計画のキーワードが幸福でございますけれども、持続可能性ということも一つのキーワードになるかなと考えておまして、そのあたりについて記載させていただいているところでございます。

第 2 章の岩手は今につきましては、時代の潮流、岩手の強み、弱みなどがございますが、本部会でこれから御議論いただくこととなりますので、後ほど別の資料により説明させていただきます。

それから、第 3 章の基本目標につきましては、午後の全体会において、これまでの審議会等での御意見を踏まえながら御議論いただいた上で、次回 6 月 11 日の中間答申において具体的な基本目標を掲げていきたいと考えております。

それから、第 4 章の復興推進の基本方向につきましては、従前からの説明のとおり、現在の県の復興計画を引き継ぎまして、切れ目なく復興を進めていくこととしております。

第 5 章の政策推進の基本方向でございます。こちらにつきましては、第 2 章とあわせまして本部会で御議論いただきたい部分となりますので、後ほど別資料により説明させていただきます。

第 6 章の重要構想（プロジェクト）でございます。長期的に取り組むプロジェクトといたしまして、創造性、独自性、岩手らしさなどを踏まえて取り組む構想を目指すものでございますが、この構想につきましては、中間答申におきましてはその考え方のみを示し、最終答申までに具体化して、複数のプロジェクトを具体化していく考えでございます。ここには代表として I L C、それから水素エネルギーや再生可能エネルギーなどの利活用、それから第 4 次産業革命によるイノベーションというものはじめとしたプロジェクトを具体化していく予定としております。

第 7 章の地域振興の展開方向につきましては、本県の 4 圏域の取組方向を示すものでございます。また、この部分の具体的な中身については、各広域振興局が設置する懇談会や

委員会で御審議いただくこととなりますので、この総合計画審議会の中間答申においては、基本的な考え方、ここにポツ4つ記しておりますが、このこと中心に基本的な考え方のみを簡潔に記載する予定としております。

それから、第8章の行政経営の基本姿勢につきましても同様に基本的な考え方のみとしております。

本日の午後の全体会での御議論の後、6月11日に正式に中間答申をいただき、6月13日に県としての素案を公表する予定としております。

なお、その素案にはこの第7章の地域振興、第8章の行政経営の部分、この部分のより具体的なものを素案にも盛り込んで公表したいというふうに考えております。

資料5を御覧いただきたいと思っております。資料5でございます。総合計画審議会・各部会においていただいた次期総合計画に関する主な御意見等の反映状況でございます。

ページを1枚おめくりいただいて、2ページ目に岩手の若者部会、11月、12月、2月と御審議いただいた部分について、意見があった内容について、その反映の方向を示しております。政策推進の基本方向で、具体的な項目と取組内容等を考えておりますので、その部分に今の部分を取り込ませていただいたところでございますが、下から2番目の他県の計画との比較や統計を掲載すべきではないかといった意見、この部分につきましては、計画の冊子の巻末資料等において記載することなどを今後検討していく内容とさせていただきます。

また、同じく資料6、7として、次期総合計画策定に係る県民意向調査、また県内の中高生を対象としたアンケート調査の結果の取りまとめたものをお配りさせていただいたところでございます。この県民意向調査の結果につきましては、現在の方向について、5割程度先行して実施している県民意識調査と並行して実施したのですが、県民意識調査とほぼ同様の結果になっております。また、幸福かどうかを判断する際に重視した項目につきましても、若干県民意識調査との順番の入れ違いみたいなのはあるのですが、ほぼ同様の傾向となっております。

また、中高生を対象としたアンケート調査結果でございますが、こちらにつきましても資料を事前にお配りしておりますが、10年後も岩手に住んでいたいかという中高生に対する質問に対して、どちらともいえないという割合が3割強となっている点、また中学校と高校を比較したときに、高校のほうがどちらともいえないが増えているのが気になるところでございます。このような答えをしたような中高生、この人たちがなるべく岩手に住みたいと思うような施策を打っていくというのが重要ではないかなというふうに考えているところでございます。

それでは、部会資料でございます。部会資料になります。A3判の厚い資料でございます。部会資料の資料2と記載されております。この内容について、本日の御議論の前提となるものでございます。説明させていただきます。

冒頭申し上げましたとおり、本日の部会におきましては、第2章の岩手は今の部分、それから第5章の政策推進の基本方向の部分を中心に皆様から御意見を頂戴できればと考えております。また、通常の県の政策にとどまらないもの、長期的な視点を要するものなどございましたら、第6章、重要構想に関して御意見を頂戴できればと考えております。

このため中間答申（案）の本体のうち、第2章と第5章について、いわゆる8+1、9

つの政策分野ごとに関係する部分を抜粋し、まとめた資料を配付させていただいたところ
でございます。

1枚目を御覧いただきたいと思います。左上に健康・余暇と表記しております。その上
で、今回その横にサブタイトル的なものを記載させております。健康寿命が長く、いきい
きと暮らすことができといったサブタイトルを設定しております。このサブタイトルにつ
きましては、9つの幸福を示す領域について、これを政策体系に結びつける上で、こうい
うサブタイトルがあったほうがわかりやすいのではないかと、またこれまでの御議論の中
で、特に仕事、収入の領域と、県における産業振興施策の関連がわかりにくいといったよ
うな御意見もございましたので、このようなサブタイトルを設けることによって、そのあ
たりを整理させていただいたところでございます。

その上で、左側に世界の変化、日本の変化、岩手の変化、また右側の一番上に岩手の可
能性として、強み・チャンス、弱み・リスクの内容をまとめて記載しておりますが、この
部分が中間答申（案）、第2章、岩手は今、いわゆる時代の潮流の部分をまとめたもの
となります。その上で、取組の方向性として、中間答申（案）、第5章の政策推進の基
本方向の内容をまとめております。このような構成で、以下1つの分野につき2枚ずつ
まとめているものでございます。

このうち若者以外の3部会では、9つの分野のうちの該当分野のみの資料を配付す
ることとしておりますが、この若者部会につきましては、全ての分野の資料を添付さ
せていただいたところでございます。

恐縮でございますが、1枚目の健康・余暇のページに戻っていただきたいと思
います。世界の変化でございますが、1つ目に社会・経済のグローバル化の進展、2
つ目がいわゆる第4次産業革命の先端技術等の動き、それから3つ目が地球環境問
題の対応ということ掲げております。

それから、その下、日本の変化でございますが、ポツの4つ目までが人口減少と少
子高齢化が重要なポイントになりますので、それに関する部分を記載しております。
その下、地方分権につきましては、分権が進んできている中で、やはり今地方創生
あるいは東京一極集中の是正ということを実現していくためには、より地方に軸
足を置いていくことが必要だというふうなことを記載しております。その下には
自然災害、それから心の豊かさと多様な働き方につきましては、価値観の
変化ということで掲げております。

その下、岩手の変化でございます。岩手の変化におきましても、現在の大きな
課題となっております人口減少、ふるさと振興と、それから復興の取組の内容につ
いて触れてございます。

右に移りまして、健康・余暇における強み・チャンス、弱み・リスクでござ
います。これにつきましては、特に若者部会に関係すると思われる部分にアン
ダーラインを入れてございます。また、この強み・チャンスにつきましては、この
健康分野でいえば、本県の県立病院、全国で最多持っているような強みに加
えまして、例えば強み・チャンスの下から2番目のポツです。盛岡市が書籍購
入額が一番多いといったデータに基づいて広く公表されているようなものも
ピックアップして記載しているところでございます。

その次に、その下の取組方向でございます。同様に若者に関連すると考えら
れる部分にアンダーラインを引かせていただいております。

第5章の政策推進の基本方向における健康・余暇の分野における取組の方向性になるわけですが、丸の方式の部分、ここが政策の柱立て、その下のポツで記載している部分、これが具体的な取組といった構成になっております。ゴシックの部分につきましては、県の総合計画という、例えばゴシックの1つ目でございますが、生涯にわたり心身ともに健やかに生活できる環境をつくりましますとありますが、環境の構築とか、そういう行政用語で切ってしまうのですが、少しわかりやすくしようということで作りますとか、充実しますとか、より積極性を出すような、県民の方にわかりやすいような表現を工夫させていただいたところでございます。

以下、2枚目のほうで、健康・余暇、同じような政策の柱立てを記載しております。

以下、この部分について同様にまとめておりますが、詳細の説明については、恐縮ですが、省略させていただきます。

なお、各分野の資料につきましては、左側の世界、日本、岩手の変化部分、これにつきましては全て同じ内容を記載させているということでございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

○神谷未生部会長 ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたが、これに関して委員の皆様から質問等がありましたら御発言のほうをお願いしたいと思います。

ちなみに、大体30分ぐらい時間をとってあるので、皆さん、ちょっと資料を読み返したりする時間が必要かなと思うのですが、何か質問、御意見等がありましたら順次お願いします。

では、ほかの委員が考えている間に、私が1つ聞いてもよろしいでしょうか。中高生を対象としたアンケートをしていただいたということで、そのアイデア自体はすごくいいなと思っていて、そもそもこのアンケート自体をとることで中高生は岩手だったり、住んでいる地域について考えるきっかけにもなったかなと思うので、これは今後もずっとやっていっていただきたいと思うので、まずやっていただいてありがとうございます。

その上で、1点、やっぱり10年後も岩手に住みたいかと思うという子たちが3割ぐらいしかないというのは、そんなものだろうなという実感とともに、10年後も岩手に住み続けたいと感じるために重要だと考える項目で、一番トップが住まいやその周辺環境が快適であることということで、ちょっとそれ自体、私は、ああ、そうなのだという感じなのですが、これ自体何を言っているのか私は余りよくわからないのです。具体的に彼らは何を想定して、どういう状態であれば快適であると言っているのかを追加で調べるなりということは考えられているのでしょうか。そこが居住環境、コミュニティーの項目であったり、健康、余暇、仕事、収入だったりという項目にその内容が具体的に反映されない限り、若者を逆に言うと引きつけ続けることは難しいのではないのかなというふうに思っております。

○岩淵政策地域部政策推進室政策監 やはりこの部分というのが、今おっしゃられたような掘り下げをしていくということが非常に大事になっていくかなと思っております。

傾向として、中学生、高校生の場合に、高校生になると住みたいと思う人がぐっと減ってきているというわけなのですけれども、この違いというのは恐らく進路とか就職とか

現実的になったときに、出てきている傾向だなと思うのです。

一方で、住まいや周辺環境が快適であると回答しているのが一番高くなっているのは、まだ進学とか就職とか、そういうのを具体的に考えない状況にあったときには、その周辺にいろんな自分が楽しめるような環境が整っているというような意味合いなのかなと私のほうでは見ていたところでございますけれども、御意見を伺いますが、当然その辺の掘り下げみたいなものを、自由記載欄とかも用意していたと思うのですが、その辺もまた見ながら、ちょっと研究していきたいというふうに思っています。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長 補足でございます。この資料7の右下のところに、中学、高校の詳細な数字が入っていますが、やはり中学生が68.6、高校が67.9ということで、どちらも住まいやその周辺環境が快適であることということが1位になっていると。後ろのほうにアンケート調査の詳細、最後のところの設問といえますか、アンケートそのものが一番後ろについていますけれども、その2ページあたりに、住みやすいと思いますか、そう思わない、どちらかといえばそう思わないを選択した人はその理由を欄に書いてくださいとありましたので、それぞれなぜ住みやすいと思わないのか、あるいは3ページのほうでは10年後もといったところですが、今ちょっと手元のほうにその自由記載の結果一覧がないのですけれども、多かったのは特に高校生中心なのだと思います。公共交通が不便だと。1時間に1本しかないとか、バス、鉄道を含めてですけれども、そこがやはり住環境といいますか、環境のところでも不便であるといった点、あとさっき政策監からもお話がありましたけれども、アトラクションといいますか、魅力的な施設が近くにないといったところで、いろいろ週末に遊んだりできるような場所がないといったことが多かったと。先ほどお話ししたのですけれども、特に交通手段のところは非常に不満が多いというふうに書いてあったと記憶しております。

いずれ部会長からもお話ありましたように、そこの自由記載はもう少し整理いたしまして、そうしますとそこの具体的な中身なり、住み続けていきたいと思うためにはどこが必要なのかというところが明らかになってまいりますので、そこに対する手当てが重要と考えております。

○神谷未生部会長 ありがとうございます。

では、ほかの委員の方、どうですか。お願いします。

では、中野さんからどうぞ。

○中野美知子委員 ありがとうございます。せっかくなので、重ねてというか、このアンケートについてのところで、私もちょっと確認というか、質問としては10年後も岩手に住み続けることがこの中の目的なのかなというところを一つ確認させていただきたかったですけれども、住み続けることがいいことなのか、外に出てたくさん学びを得て、経た上で岩手に戻ってきてもらえることというところも想定できるのではないのかなと思ったのですけれども、この設問をつくったときの作成者はどなたがつくられたのかあれなのですけれども、その目的というところをちょっと教えていただければなというふうに思います。

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** 中野委員がおっしゃるのは、今までの昨年度からの部会のテーマでもありましたように、一旦外に出て戻るといったところは重要かと思えます。

このアンケートで、おっしゃるとおりそこを含めて聞くべきだったなというのがありまして、10年後もというふうに言うと、ずっと継続して住んでいるというイメージを確かに与えます。卒業して一旦外に出て、10年後、結果として戻ってきているかというほうが、多分設問とすると適切だったように思います。そこはおっしゃるとおりだと思います。

○**中野美知子委員** ありがとうございます。もし次に継続してアンケートとられる際は、その部分もぜひ入れていただきたいなというふうに感じているのと、逆に愛着のところのアイデンティティーのところが高くなってきて、戻ってきてくれるという方向性がうまくこの中で見出してこれると、非常にデータとしてわかりやすくなっていくのかなという印象を受けましたので、ぜひお願いします。

もう一点、先ほどの住まいの部分だったのですが、両親が建てた家に住み続けたいかどうかというのも多分いろいろあると思うのです。人口減少の中でも、空き家の話も結構出ている中で、自分が家を建てて住むのか、両親が住んでいる家に戻ってくるのか、生き方はそれぞれだと思うのですが、住む場所がどこでありたいのかというのも実は結構重要なのではないのかなというふうに、岩手の経済活動として考えたときに、それは一つあるのかなというのを印象として受けましたので、ぜひもし織り込めるのであればそういうところも含めていただければなと思います。

以上です。

○**神谷未生部会長** ありがとうございます。

では、下向委員、お願いします。

○**下向理奈委員** さっきの中高生向けのアンケートの件で、対象となった学校の一覧の資料を見ていて、これはどのように選定したのか。野田中学校がなぜないのだろうと、純粋な疑問だったので、どのように選定されたのでしょうか。

○**本多政策地域部政策推進室特命課長** 政策推進室の本多と申します。去年まで教育委員会にいたので。

この対象については、全体で対象となる数をまず出しまして、そこからあと各圏域のバランス、例えば人口の比率だけでやってしまうと、どうしても北上本線沿いだけになってしまうのですが、やっぱりそれではうまくないだろうということで、各圏域ごとにある程度の数をアンケートしようということで、あと各圏域の中でも大規模な学校と、あとは小規模な学校と、それぞれ感じていることは違うだろうなということで割り振ったと。その中で、今だと学級数、子供たちの数を見て、ちょうどいいところをピックアップして、結果こういうような対象の学校になったというところでございます。

○**下向理奈委員** ありがとうございます。

例えば資料3の第7章、地域振興の展開方向の中に、広域振興圏の区域を越えた広域的な連携というのがあるのですが、例えば久慈中学校があって野田中学校がなくて、先ほどの場合はアンケートなのではあるのですが、久慈広域といってもやっぱりそれぞれの市町村にすごく特徴もあるし、まちのメリット、デメリットも違うので、久慈広域はこうだからという中に、果たして本当に野田村なら野田村の課題解決というか、そういうものが反映されているのかというと、ちょっと私自身もわからないところがあるので、できれば統計とか数値的なところをとるときに、もっと広域の中でも、久慈広域だったら久慈広域の中でも、もう少し細かい調査みたいなものをいろんな事業の中の全体でとっていただけたら、もっと現実的な施策が見えてくるのではないかなと思いました。

以上です。

○**神谷未生部会長** ありがとうございます。

ほかはどうですか。

では、黒沢委員、お願いします。

○**黒沢惟人委員** w i zの黒沢です。きょうは女性部会ですね、おおむね。

さっきのアンケートのところですが、多分小学校高学年と中学生と高校生と、あとできたら県内の大学生、岩手出身者のほうがいいのですか、多分。継続していくと、いろんな遷移が見えておもしろいかなと思いました。何でそんなことを言っているかということ、岩手では幸いにして、小中高は基本的に公立で運営されていると思うので、今文科省に紐付いていろいろやって、SGHとか、スーパーサイエンスハイスクールとかやっていたりすると思うのですが、それもそれで大事かなと思いつつ、県としてもやるべき岩手のアイデンティティーをどうやって醸成していくかみたいなのところにもつながってくるのかなと思いました。なので、もうちょっと対象を広げてもおもしろいかなということと、さっきの設問のところは、何かこれ一言で言うと大人向けの設問なので、何かかなというか、これだと将来の夢は公務員ですと書いてしまうかなと思います。

以上です。

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** 県内の中高生を対象としたアンケートについては、実は今までなかなかこういったアンケートができていなかったところがありまして、昨年度の総合計画審議会のときに、県のPTA連合会の会長だった五十嵐のぶ代さんから御提案がございまして、実施したものです。初めてという形になるかと思いますが、中高生を対象としたアンケートといった形で、ある程度の規模のものを行っていたということです。

ですので、委員からお話がありました設問自体の課題とか、あるいはその対象と地域も含めて、いろいろあるかと思いますが、これ毎年度できればベストなのではあるのですが、もしかすると2年となるかもしれませんけれども、今後どういうふうな形でというか、あと小学生を入れるかといったところも含めて、いろいろ考えていきたいと思っています。

確かに資料7のほうの4、右のところを見ますと、中高で明らかに傾向が違って、

高校生になれば、やはり就職先、現実が見える中でどちらともいえないといったものが高くなっていく。一方で、例えば重要と思うことについては、小学生から特に地域に対する誇りを持っていただくことが重要といった御意見もさまざま出ておりますので、小学生の皆さんの考え方について継続的にとっていくということも重要なのかなと思っております。

当然小学生の皆さんに対する設問、また高校生の皆さんに対する設問は同じでいいのかなど、いろいろ課題、検討すべきものはあると思っておりますけれども、いずれ特に次に幸福度を考えたり、あるいは岩手を一旦出ても住んでもらいたいといったことを考える中では重要な要素だと思っておりますので、検討していきたいと思っております。

あとそれからもう一つ、大学生のところなのですが、これも県大なり、岩大なりに協力をいただくといったことでとれるのかなと思っておりますので、検討したいと思っておりますし、あと東京で、特に県外に出た学生さん、あるいは県外に出て就職した岩手に関わりがある方の岩手に対する考えというのが重要なかなと思っております。昨年度、規模はまだ小さいのですが、わかすフェスのときとかアンケートをつくってお願いしたといった経緯があります。ただ、実は岩手を応援してくれる人たちが多くて、岩手出身の方とかという数がそれほど集まらなかったものですから、このアンケートについては継続してとっていきことによって、学生さん、それから大学を卒業した方々の岩手に対する考え方もだんだん明らかになってくるのかなと考えています。この辺は、継続的にとっていきたいと思っております。

以上です。

○神谷未生部会長 では、千田さん、お願いします。

○千田ゆきえ委員 千田精密工業の千田です。まずは、11月に出産を終えまして、長くお休みをいただいております、大変申しわけありません。欠席をしております、今ついていくのにやっとというところで、すみません、頭がちょっとついていないのですが、私は2期にわたり審議員をやらせていただいている中で感じるの、前回、前々回の話し合いで出たようなことがまた出ているなというような印象を正直少し受けます。そこは県のほうが、少しまとめにもありましたけれども、前回、前々回、部会でこういう話が出たよというフィードバックは少しあったほうが、先ほど中野委員のお話もありましたけれども、同じような話は去年もおととしも出ているわけで、そこが例えばアンケートの10年後もというところがなぜ反映できなかったのかなというところは少し疑問を感じるところであります。ただ、そういった中で、お話もありましたけれども、初めてこのようなアンケートをとったというところは、大変私としては興味深いなと思って拝見しておりました。

同じ繰り返しになりますけれども、対象高校をどう選んだのかというところ、個人的には進学校と就職率が高い学校さんとの違いというのは出るのかなというところ。なぜかという、私は県南の高校生さん向けのキャリア教育にほとんど行っているのですが、進学校に対するキャリア教育は一切入っていないのです。進学校とか、キャリア教育の岩手県で活躍している若い人たち、経営者も含めての話を聞く場がほぼないと。さっき県外

に生まれましたといったときに、では、彼ら、彼女らはどう考えているのだろうかというところが知りたいなといって、そして差があるのだろうか、言い方は悪いですが、県内に就職せざるを得ないような子たちと、ある程度の学力を持って県外に出て、さて選択肢がいろいろ、就職先がありますよという方たちがどう考えているのかなというところの差というのもおもしろいのではないかなと思って拝見しました。連続して来年もどうかという話も生まれましたけれども、いろいろブラッシュアップしながら、継続的にとっていったほうがいいのかと思います。

私個人としては、3期目を迎えましたけれども、ずっと申し上げているのは、教育が岩手を変えろというのは本当にそのとおりだと思っていて、未来図書館さんとかも頑張っているいろいろなさっかいますけれども、本当に小学校、中学校、高校生のうちにどのように教育を、岩手県に対する教育も含めてやっていくか。もちろん就職した後の働き方改革も含めて、社員さんの育成がちょっとまだまだ足りていないのではないかなというところもありましたけれども、本当に教育が全てなのかなと思っている中で、若いうちから継続的にそういうような発信をし続けていくというのは有効ではないのかなと思いますので、今回のこのアンケートはすごく有効かなと思って拝見しておりました。

以上です。

○岩淵政策地域部政策推進室政策監 以前、商工労働観光部にいたのですが、岩手の企業を知ることについては、小学校段階からいろんな取組をしないと、高校とか、遅くなってからではもう遅いよという話も随分聞いておりました。そういう中で、やはりこういう若い人たち、学生、中高、小学生を含めて、意見を聞いていくということが非常に大事だと思いますので、また次に調査するときとかも各委員の皆様の御意見を聞きながら、フィードバックできるような仕組みをつくっていきたいと思います。よろしく願いいたします。

○神谷未生部会長 ほか何かありますか。まだ時間が10分弱ぐらいあるのですが、なければ、私から2点あるのですが、いいでしょうか。全然内容の違う2点なので、1つずつ話させていただきたいと思います。

資料3の2枚目のA4資料の一番下、第8章で、行政経営の基本姿勢というところで、行政がこれからの10年を踏まえてどういうふうに改革、行政を運営していくかというところで書かれているのですが、書かれていること、4点は真つ当なことで当然やってもらいたいなと思っているのですが、既に多分皆さんオーバーワークぎみなので、そこを何とかしたほうが、逆に皆さんいいのではないかと、私は皆さんから来るメールの時間を見ながら思っているのですが、そういう意味も含めて、行政経営をIT化していくという言葉を含めることというのは可能なのでしょうか。それによって行政側も民間側だったり、私はかなり小さな団体で働いているということもあるのですが、多分黒沢さんも前々から言っていることなのですが、何でもこういうやり方をいまだにしているのだからと思うことが多々あるというのが実情なので、行政の方々がここで行政としてこの10年かけてもうできる、しかも人手がどんどん少なくなっていく中で、こんな単調作業、窓口業務に何人割っているのだからと、正直思ってしまう面が多いのです。ですので、行政としてもIT化

をしていくことで業務の効率化を図って、本当に人が考えなければいけない分野に注力できるというベネフィットも出てくるのかと思うので、思い切って。この間ニュースが出ていたのです。神戸がどこかのアプリ会社と提携して、住民課の業務をほとんどもうアプリで対応するようにするみたいなニュースが出ていたのですが、神戸ではなかったかもしれないです。ごめんなさい。ちょっとここは記憶が曖昧なのですが、そういうような決断というのを岩手もしていく時期に来ているのではないのかなというのが1点ですが、その辺についてはいかがでしょうか。

○岩渕政策地域部政策推進室政策監 おっしゃるとおりでございます、IT化の話につきましては、専門部署をつくったりして研究しているのですが、法律とか規則の縛りがあって、なかなか簡略できないといったことが1つあります。

それから、先ほどメールの送信時間が遅いという話がありましたけれども、どうしても行政というのはボトムアップ的な体制で進んでおりましたので、トップダウンで方針を先に固めてから仕事に入っていきような形をすれば、かなり効率化できる部分があるのですが、そういう工夫も必要だと感じております。私もそういう経験をしたことがありますので、非常に大事だなと思っています。

また、ちょっと県の仕事と市町村の仕事を分けて考えたときに、おっしゃいました窓口業務の話がありましたけれども、これにつきましては例えば今効率的な仕組みについても小規模な市町村さんの窓口業務、これを処理するために広域の市町村で独立行政法人を設置して、そういう中でスケールメリットを出して窓口業務をやれるような法制度も進んできていたので、そういうふうなのを活用しながら、まさに本当に人口減少が進んでいくということは、職員数も減らざるを得ないということだと当然思っておりますので、その辺は十分に受けとめて対応していくように、また担当部署に話ししてみたいと思います。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長 補足で、若者部会として、今回の中間答申のたたき台、第8章のところ、4つのポイントありますけれども、具体的にIT化といったものを盛り込むべきという御意見であれば、それをぜひ入れていただいて、午後の部で、本体のほうで部会での意見ということで、部会長のほうから御発言いただく機会がございますので、計画を進める上で、やはりまず行政のIT化をしっかり進めるべきといったところを盛り込んでいただくのがよろしいかと思えます。ぜひお願いします。

○神谷未生部会長 言葉をまず盛り込むところから、行政というのは動くか動かないかという第一歩が始まる、始まらないかというのが決まるかなと思うので、ぜひそういうふうな意見を盛り込みたいと思います。

補足なのですが、当然業務効率化ということもそうなのですが、行政なり、ほかの民間企業、その職種にしろ、入っていく若者というののもかなりアプリをベースにした世の中で生きてきているので、そこからいきなり全部手書きみたいな世界に入ると、そもそも若者の働く意欲を奪っていることとほぼイコールになると思うので、ここは多分業務効率化という以上に、本当に有能な職員がモチベーションを保ったままで5年、10年、県のために、もう少し就職した会社のために働いていくかぐらいの重要な案件だと私は思っています。

すので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

あともう一点いいですか。岩手は今（現状認識・展望）というところ、資料3の第2章なのですが、これから岩手は当然のことながら、日本全部が人口減少であつて、どんどん、どんどん若者が減つていく中で、移民をかなりの数受け入れないと、そもそも農業、漁業、水産業が全く立ち行かないという現状がもう目の前に来ていて、さらにもう移民の方ですら日本を選ばない状況になりつつあるというのが今世界の潮流ではないのかなというふうに思つています。今日本で移民を受け入れる現状とすれば、正式名称がわからないのですが、水産業とか農業のところに研修生制度みたいな感じで受け入れる制度しかないのですが、それ以外の形で移民を受け入れるような政策を岩手単体で打ち出すのは難しいにしろ、岩手なりの受け入れ方、あとはその受け入れた子たちが大槌にもいるのですが、ほとんど孤立した状態で暮らしているというのが現状なのです。たまにショッピングセンターで見られるけれどもという。そうではなくて、どんどんこれから数がふえていく中で、どういふふうにコミュニティー、そこのいるコミュニティーと共存していつてもらえるのかというところを考えなければいけない時期に来ているのかなと思うのですが、その辺はどこかに盛り込んであるのでしょうかということと、盛り込んでいなければ、何か盛り込みたいなと思ひます。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長 今の移民という形なのですが、やはり基本的にそういう移民政策については、国のマターでございまして、就労ビザの関係とかありますので、県独自に国の政策を超えて独自にというのはなかなか難しいと。現実的には研修生の制度がございまして、部会長お話しのように、かつては中国から研修生の方が多かつたと。最近ですと、ベトナムとかミャンマーの方のほうが増えている状況にあるといったことで、これは沿岸の水産加工業でありますとか、あるいはものづくり産業のほうでそういった方々が欠かせない人材になりつつある、あるいは今後福祉分野とか、福祉、介護の分野においても、そういった人材が必要になってくると思つております。

県ですと、国の制度を超えて、積極的に受け入れるというのは、なかなか書けない話ですので、むしろそうやっていらっしゃった外国人県民ということだと思いますけれども、そういう人たちにどういふふうに地域の中に溶け込んでいただくかといった観点から計画の中に盛り込んでおります。本体のほうになりますけれども、中間答申案の本体の30ページの白丸上から3つ目のところなのですけれども、海外の多様な文化を理解し、共に生活できる地域づくりを進めるといったことで、多言語による生活情報の提供、相談体制の充実、外国人が住みやすい環境づくりの推進というところで、積極的に受け入れるということではなくて、いらっしゃった、お住まいになっている外国人の人たちが地域の中で快適に生活できるような状況、環境をつくるという形では盛り込んでおります。

実は、昨年度ですけれども、この次の計画をつくるに当たつて、県南、奥州と、それから盛岡のところで、岩手に住んでいる外国人の方々、もう20年ぐらゐ住んでいるの方々、あるいは留学でここ2、3年という方々とも意見交換を行ったのですけれども、そういった中ではやはり長い間住んでいる方からは教育、それから交通、バスとか電車とか、そういったものの不便性、あと若い人たちからは、岩手に留学して、その後も勤めたいと思ひのだけれども、勤め先がないとか、そういった話がありました。ある意味外国人の方々は、

日本人の人と同じような不便さ、あるいは課題を感じていらっしゃるのかなというふうに思っておりますので、そういった観点から次の計画の中に盛り込んでいこうと思ってございます。

○岩淵政策地域部政策推進室政策監 外国人実習制度のお話でございますが、この取組については、おそらく具体的な取組としてアクションプランの中で書き込まれてくるのではないかなというふうに考えております。

それから、第2章のところ、具体的なところが最初のページに書いてあるのですが、第2章のところでも社会基盤の分野のチャンスとして、視点は違いますが、I L Cが実現すれば、これまさに国際都市ができるわけですので、そういうのをチャンスと捉えて、一応対応していきましょうというような書き込みをしています。

○神谷未生部会長 ありがとうございます。しっかり盛り込んであるということで、そこはそのままいいかなと思いつつも、やっぱり選ばれる県に、研修生の方に選ばれる県になっていかないことには、本当にもう東京のほうでは、栃木とかに研修生が来なかったら東京から野菜がなくなるとまで言われていて、かなり力を入れているという話も聞きますし、岩手としても研修生が岩手を選ぶような岩手になっていくということは、ほかのずっと住んでいる日本の岩手人の人にとっても暮らしやすい岩手になるということと同義だと思うので、どうやったら研修生の人に来て、居心地よく暮らせる岩手にしていくのかというところを含め、政策のほうに落とし込んでいただきたいということと、あとこれは私の大槌での印象のみかもしれないのですが、あとほか一部ちょっと見たことがある、大槌や岩手ではない場所で見たとありますが、どうしても研修生というのを割とちょっと住民の方が距離を置いて見ているというか、あの人たちは2、3年来て、働いて帰る人たちだからみたいな感じで、割とコミュニティーに受け入れられないような風潮がどうしてもあって、それはI L Cとかで国際都市ができると、雰囲気は違ってくるのではないのかなというのもある、そうではなくて、実は岩手というか、日本単体では、移民、外国の方たちの手助けなしでは成り立たない場所になっているのだよというのを中高からの教育にも含めるということも必要かなと思うので、住みやすい場所という海外の多様な文化を理解しということに施策として小中高の理解を促すみたいな施策を盛り込んでいただけるといいかなというふうに思います。

○岩淵政策地域部政策推進室政策監 ありがとうございます。その人材育成の部分についても、教育の分野でのそういう国際対応のような形、こういうところも含めて、プロジェクトの中でそういうのも必要ではないかということで、今検討を進めておりますので、そういう中でも考えて、できれば盛り込んでいければいいなというふうに思っております。

○神谷未生部会長 では、ちょっと時間オーバーですが、黒沢さん、お願いします。ごめんなさい、私がいしゃべり過ぎました。

○黒沢惟人委員 多分、各地域で幸福度に関するワークショップみたいなのを開催された

と私が関わっている協議会から聞いたのですが、実際の所感はどのようなだったのかすごく気になっていて、多分おおむね 20 代から 30 代くらいの人を集めてやられたと思うのですが、県として学びというか、どういう発見があったのか教えてもらえればな思いました。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長 県内で、広域圏で 3カ所ですか。では、実際見た職員から聞きながら。

○七木田政策地域部政策推進室主査 政策推進室の七木田と申します。よろしく申し上げます。昨年度の幸福について考えるワークショップにつきましては、県内 4 広域局単位で行いまして、計 12 回行っております。年齢につきましても、大学生の方ですとか、あと若い方もおりましたし、あと地域のボランティアに従事している方、結構高齢の方も、幅広い年代の方に参加いただきまして、それぞれ自分がどのようなことに対して幸福を感じるか、これから幸福になっていく、幸福度を高めていくためにはどのようなことをすればいいのかといったことを御議論いただきまして、県といたしましてもさまざまな幸福に対する考えがある中で、それぞれ今回進めていきます次期総合計画、8 + 1 の柱を推進していく必要があるなということを感じたところでございます。

○神谷未生部会長 ありがとうございます。

では、ちょっと時間もオーバーぎみなんで、これで意見交換のほうを打ち切ってもいいですか。

「はい」の声

○神谷未生部会長 それでは、本日の部会における意見交換は以上とさせていただきたいと思えます。

ここで一旦部会休会し、その間事務局は本日午後の部会に提出する意見のとりまとめをお願いします。

部会再開後、委員の皆様には取りまとめ内容を確認いただき、当職においてこれまでの議論とあわせて審議会でコメントを行うこととします。

何時に戻ってきましょう。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長 10 分程度です。

○神谷未生部会長 では、10 時 10 分に席に戻ってくるようお願いします。

では、休会します。

(休 会)

○神谷未生部会長 では、部会を再開します。

本日の意見交換においていただいた主な御意見として、3 点上がっています。今からそ

れを読み上げるのですが、それはきょうの午後にやる親会のほうで若者部会から出た意見ですとって私が読み上げるものになるので、皆さん、それでいいかどうか聞いてください。

第4回若者部会における主な意見等ということで、①、小、中、高、大学生に対するアンケートを継続的に実施することが必要（一度県外に出た人たちを含めた意向を確認することや原因分析に資するような設問が重要）、②、計画を推進する上で、行政サイドの抜本的なIT化と働き方改革が必要、③、外国人（研修生を含む）にとって魅力的な岩手とすることが重要という3点が今回の若者部会の主な意見として上がっていますが、ほかに追加、補足、修正することはありますか。

「なし」の声

○神谷未生部会長 私から1点聞いてもいいですか。すみません、何かいつも私がしゃべっている気がするのですが。

たしか前回か、第2回か第3回の委員で、家族・子育てというところで、家族という言葉をもっと使っていいかどうかみたいな話が出たのと、そこを含め、誰でもが幸せを追求できる岩手にするというので、若者部会はちょっととんがった施策を岩手がすることで、岩手を魅力ある県にできるのではないかとということで、あえてLGBTの方々やいろんな方々が住みやすいまちにするところを提案したと思うのですが、そこが今回の資料5の2ページ目の若者部会のほうでは特に記載もされておらず、政策として家族・子育ての欄でもやっぱり家族という言葉がそのままあるし、では家族の定義は何なのかというところが書かれていないので、イコール書かれていないからいろんな捉え方があるという意見もあるのかもしれないのですが、どちらかという家族という言葉を使って、その定義が書かれていない、イコール従来の定義の家族のまま県民の政策を推し進めるというような意味合いとなりかねなくて、今はそういう時代ではないよねというところがあった気がするのですが、そこら辺はいかがでしょうか。県として、やっぱりそこはとんがり過ぎて盛り込めないということなのでしょうか。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長 第5章の家族のところについては、当部会での議論を踏まえて、家族の形に応じたということで、いろんな家族の形があるよというところを意識して表現はしました。ただ、確かにちょっとLGBTの話は具体的に入っていないといったことがありますので、申しわけありません、そこについてはそこまで入っていなかったということでございます。

ただ、復興委員会のほうでも同様の議論があって、復興に当たってもそういった視点が重要ではないかといったことがありましたので、そういったところも意識してのサブタイトルというふうに考えておりましたが、むしろもっと具体的に書き込んだ方がいいということでしたら、意見として追加いただければというふうに思います。

○神谷未生部会長 私としては、今はやっぱりマイノリティーのグループだからこそ、あえてこういうところできちんと文字として残して提案するということが必要かなと思うの

ですが、ほかの委員の皆さんはいかがでしょう。

○**下向理奈委員** あとは、全県頑張るみたいなのが。

○**神谷未生部会長** あったのですね。IT化のところ、今回のIT化は職員の方の働き方というところなのですけれども、そもそも岩手は全県Wi-Fiを推し進めていくという意見も確かに出ていましたね。

○**岩渕政策地域部政策推進室政策監** Wi-Fiにつきましては、今回長期ビジョンの中で大きな柱立てと取組項目でございます。アクションプランの中で書き込まれてくるものかなと思います。

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** そういたしましたら、申しわけありません、その点については、改めてここに書き加えると。前回のところで、幸福度を高める手段として、ストレスを取り除くことが重要と。例えば夫婦別姓、夫婦別姓について、実はこれも国のほうの制度的な話になりますので、旧姓使用とか、そういったものについては、例えば県とか、そういったところではやっている人結構いますので、ここはちょっと法律に関する国の分野にはなるのですけれども、LGBT施策、Wi-Fiなど、尖った施策があつていいといったところではございましたので、ここについて改めて今回も載せると。事務局のほうの対応がしっかりしなくて申しわけありませんが、そこを追加するようになりたいと思います。

○**神谷未生部会長** では、今回それをそのまま午後に発表するほうにつけ足していただくということで、よろしくをお願いします。

ほか皆さんどうですか。大丈夫ですか。

○**下向理奈委員** アンケートの学校のバリエーション、もう少し今後ふやして欲しいと思います。

○**神谷未生部会長** アンケート対象校をきちんとバリエーションもほぼ全校対象ぐらいの勢いでやってほしいと。

○**千田ゆきえ委員** あと、IT化と働き方改革というところがありましたけれども、行政経営という考え方、多分前期から出てきたと思うのですけれども、そこ私はすごく重要だと思っていて、経営というとなれば数値化というところ、目に見えるというところも大事だと思うのですけれども、それは1年で大きく何か変わったのですか。

○**小野政策地域部副部長兼政策推進室長** 行政のほうという意味でしょうか。

○**千田委員** 行政のほうです。そこをもう少し突っ込みたいなと思いました。ITの働き

方改革、そのとおりなのですが、行政経営というキーワード、私はすごくいいと思っています。

○岩渕政策地域部政策推進室政策監 行政経営の面なのですが、前回の計画からおっしゃるとおり入ったわけで、行政経営と計画推進と、内部と外と両輪で進んでいくということで書いたのですが、御指摘のようなことも盛り込んでいただくことは大事なことだと思います。

○神谷未生部会長 では、時間がないので、第4回部会における主な御意見について、もう一度取りまとめしてもらって、お昼御飯を食べた後に少し見直す時間があるかなと思うので、若者部会の意見として提出できるかというところを再度確認したいと思います。

駆け足ですが、これで第4回部会においていただいた主な意見とします。

では、進行を事務局にお返しします。

3 閉 会

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長 委員の皆様、神谷部会長、ありがとうございます。ありがとうございました。

今後、あと5分後になりますけれども、10時半から3部会、暮らし部会、仕事部会、学び・文化・スポーツ部会のほうがございます。暮らし部会については、桐華、この階です。それから、仕事部会についてはこの場所、学び・文化・スポーツ部会については福来の東のほうで開催いたしますので、恐縮ですけれども、御移動のほうをお願いいたします。

また、先ほどありましたまとめにつきましては、事務局で今の御意見を踏まえて整理いたします。昼食時間に部会長をはじめ皆様に御確認いただくようにしたいと思います。

本日は、第4回の若者部会、どうもありがとうございました。